

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 千464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 竹内真三

No. 5 (1983~1984)

みんなにロータリーを —— みんなに奉仕を
Share Rotary —— Serve People

1983~84年度RI会長 ウィリアムE. スケルトン

第49回例会 昭和58年8月2日(火) 晴

◇ “君が代” “奉仕の理想”

◇ 出席報告

会員 47名 出席 36名
出席率 78.26%

◇ 前回 7月26日(修正出席率) 100%
make up

秋山君(7/28東南), 橋本君(7/27東大阪), 加藤(保)君(8/1東), 久保田君(7/22港), 松居君(7/29北), 宮尾君(7/29北), 大谷君(7/28東南), 鈴木(正)君(7/28西), 鈴木(猛)君(7/22港)寺澤君(7/22北), 都築君(7/30守山)

◇ ビジター紹介 3名

◇ 誕生日祝福

鈴木(正)夫人(8/2)

◇ ニコボックス

竹内君(本日のスピーカーを紹介させて頂いて), 松居君(ホームクラブ御無沙汰しました), 水野(民)君, 竹内君, 加藤(大)君, 松居君, 三輪君, 谷口君, 林君, 浜口君, 石田君, 菊池君, 成田君, 新美君, 大口君, 菅原君, 和田君(林君の取切戦ゴルフコンペ祝勝会に参加して), 鈴木(正)君(夫人誕生日)

◇ バナー披露

RC of Sud de Paris, France (水野(賀)君)

◇ 三輪幹事報告

1. 8月16日(火)の夜間例会の出欠の返事なるべく早くお知らせ下さい。

◇ 菊池社会奉仕委員長報告

去る7月28日, 名古屋東南RC主催の市内14RC社会奉仕委員長会議の報告を申しあげます。

1. 社会奉仕労働活動費を今年度は会員1人あたり3,000円に決定された。
2. 山陰水害見舞金は各クラブで行うこと。(将来については合同ということも検討)
3. 東山植物園の遅咲き桜寄贈については緑化協会を通じ, 名古屋緑化基金として役立つ

てて頂く要請を検討中。

4. 昭和60年より計画されている市営公園造成に当たり友愛の広場寄付を今後検討する。

◇ 竹内会長挨拶

私が国家試験というのを受けて一応公けに医師として認定されましたのが実は昭和26年の事です。当時は勿論, 抗生物質なんてものは高嶺の花で, ペニシリンとか結核に対するストレプトマイシンがやっと輸入品として使われる様になった頃です。入手難と目の玉の飛び出る程の高価なものでした。当時私も軽度の肺の浸潤がありましたが, ストマイが高価で手が出さず, ひたすら安静第一に寝てた事を思い出します。その頃も今も, 内科の医者が日常最もよく遭遇する疾病が風邪と下痢腸炎でした。皆さんも御承知の様に「腹のしぶる」程辛い事はありません。今でしたら早速に抗生物質の使用となる処ですが, 高嶺の花の当時ではそれは無理というもの…。そこで珍重されたのが『キノホルム』があります。安価で且つこれ程劇的に下痢の止る薬剤はありませんでした。

一方, 昭和30年代に入って発生し45年頃迄に約1万名の『スモン病』が発見されました。下痢にはじまり神経麻痺や運動失調, 失明という経過を辿るこの疾病も初め原因は不明でした。

昭和45年3月東大の薬学部の田村教授は医学部の豊倉教授からスモン患者特有の大便中の緑色物質の正体の探求を依頼されました。

然し, 大便中の緑色物質の抽出は難作業で, 漸く取り出しても微量のため正体の解明は出来なかったのです。ところが6月になって三楽病院の一看護婦がスモン患者の小便が便同様に緑色を呈する事を見付け, 田村教授に届けました。

その尿の分析から淡黄色の針状の結晶が沢山にあり、実はそれが整腸剤のキノホルムである事が判明し、之が鉄と結合して緑色を呈する事が判りました。田村教授の発見は新潟大の椿忠雄教授により統計的、疫学的に調査され、「キノホルムはスモンの原因らしい」と推定され、9月になりキノホルムは市販禁止となり事実スモン患者は激減しました。

この半年間の研究の素早さは賞讃されてよいと存じます。然しこの短時日に結論を得た研究の陰に一看護婦の鋭い観察が果たした貢献は表面に出ませんが大きいと思います。路傍の小さな石塊を除く事が転ぶ予防になる(530運動につながりましょう)微妙な異臭への要心がガス爆発を防ぐ、等々、世の中には実は日立つ行動よりも日立たぬ、一見無益な配慮が互に保たれて調和してゆくものかなと考えるのであります。ロータリーの在り方に似てませんか。

◇講演

名古屋大学 助教授 蜷川 映巳 氏
“試験管ベビーを巡って”

最近、テクノロジーは、驚く程のスピードで進んでおり、バイオテクノロジーとりわけ遺伝子工学、エレクトロニクス、ニューセラミックスの各分野での技術革新には、目を見張るものがある。

医療の分野でも、これらの技術革新の影響は、多くの面で見られ、医療の進歩をささえる一方で、社会的に別の問題を提起しつつある。診断機器の高価格がもたらす医療水準の向上と医療費の高額化といった面が最も顕著な面であろう。

医療の現場では、常にマイクロとマクロの葛藤がある。極言するならば、個では、最高の医療を受けたいと願い、社会全体としては、最も低価格の負担の少ない医療を求めるということになろうか。

本日の問題である不妊症に関しては、かつては、保険適応外の疾患で、患者が全額を負担していた。保険適応となって、いかに多くの患者が、その恩恵を受けたかはかり知れないものがある。

人の卵子は、卵巣から出て、卵管探でとらえられ、卵管に入る。精子との出会い、受精、分裂を経て、胞胚となり子宮で着床するまでの約7日間が、受精卵にとっての孤独な旅である。何らかの理由で、卵管が閉塞するか、機能しない婦人は約1~2%いると考えられている。この婦人達にとっては、卵管を開く手術を受ける以外に治療の方法はなかった。しかし、この手術成績は低く、妊娠し得るのはわずかであった。最近ではマイクロサージェリーの進歩で、この面での進歩が期待出

来る。

1972年ステップトウとエドワードが、手術で摘出した卵巣からの卵子を精子とシャーレ上で受精させることに成功し、雑誌ネイチャーに発表した。その後5年にわたって彼らは卵子の受精をシャーレ上で行い、これら子宮内に入れることをくり返した。1977年に1例が妊娠したが、不幸にも子宮外妊娠で、手術をしなければならなかった。1978年7月25日最初の体外受精児、ルーズ・ブラウンが誕生した。つい先頃5歳の誕生日を元気に迎えたのである。その後世界の各地で体外受精が行われ、100例をこす分娩が報告されている。日本でも東北大において妊娠の成立2例が報告されている。東北大では37回目の症例で成功したとのことであるが、現在では5例に1例成功というのがイギリスでのレベルであるようである。

体外受精のもたらしたものは、ミクロの幸福であろうが、マクロにはどんなインパクトを持つのかを考えなければならない。

1つには倫理的な問題がある。医療関係者以外の知恵を借りたい部分であろう。

1つには、経済的な問題も考えねばならない。1人の体外受精児の出生には、数百万円の費用がかかると推定される。年間1万数千人の適応者がいると考えられるが、だれがそれを負担するのかを考えねばなるまい。

もう1つは、医療従事者の問題であろう。受精、着床をめぐるのは謎の部分が多く、人受精卵を使つての実験の誘惑が常にある。これら多くの問題をかかえながらも、テクノロジー号の乗客の1人として、体外受精は出発してしまっている。テクノロジー号の進路をきめるのは、人間の英知である。

◇市内14RC新入会員講習会開催の案内

日時 8月20日(土) 14:00~16:00

場所 名古屋都ホテル 3階 金扇の間

持物 筆記具・定款・細則

ホスト 名古屋守山RC

●当クラブ出席会員

深見君、堀場君、河合君、小林君、小池君、久保田君、西川君、笹野君、都築君、鶴飼君

◇次回例会(8月9日)

卓話 “昭和58年度全国高等学校総合体育大会裏話”

愛知県教育委員会事務局保健指導監

小澤 和郎 氏

(紹介者 大谷和雄君)

◇次々回例会(8月16日)

夜間例会の為、卓話はございません。